

野州足利本坂町

清水庵

至道

認者唯和法抄序

史妙法蓮花經の三世法公出世の印懐まゝ

みすゆ年此極健なりかゆかゆなりは乃の

とや法公中主家者才一と申おとは靈門

おの二千八百乃骨體の要此咽喉なりある

乃周乃疾まへえまにのうとく具山一りり

四句の文とすうとてまかたさあまを多と

てりて急事やま山田乃二句とらへく不む不死

乃仙人とやるほふあれと致社といひまをうと

作是言

今時におもひては... 九 念盡... 十 念盡... 十一 念盡... 十二 念盡... 十三 念盡... 十四 念盡... 十五 念盡... 十六 念盡... 十七 念盡... 十八 念盡... 十九 念盡... 二十 念盡...

二十

世尊觀世音菩薩善男子若名觀世音

世尊觀世音菩薩善男子若名觀世音... 二十一 念盡... 二十二 念盡... 二十三 念盡... 二十四 念盡... 二十五 念盡... 二十六 念盡... 二十七 念盡... 二十八 念盡... 二十九 念盡... 三十 念盡...

四十

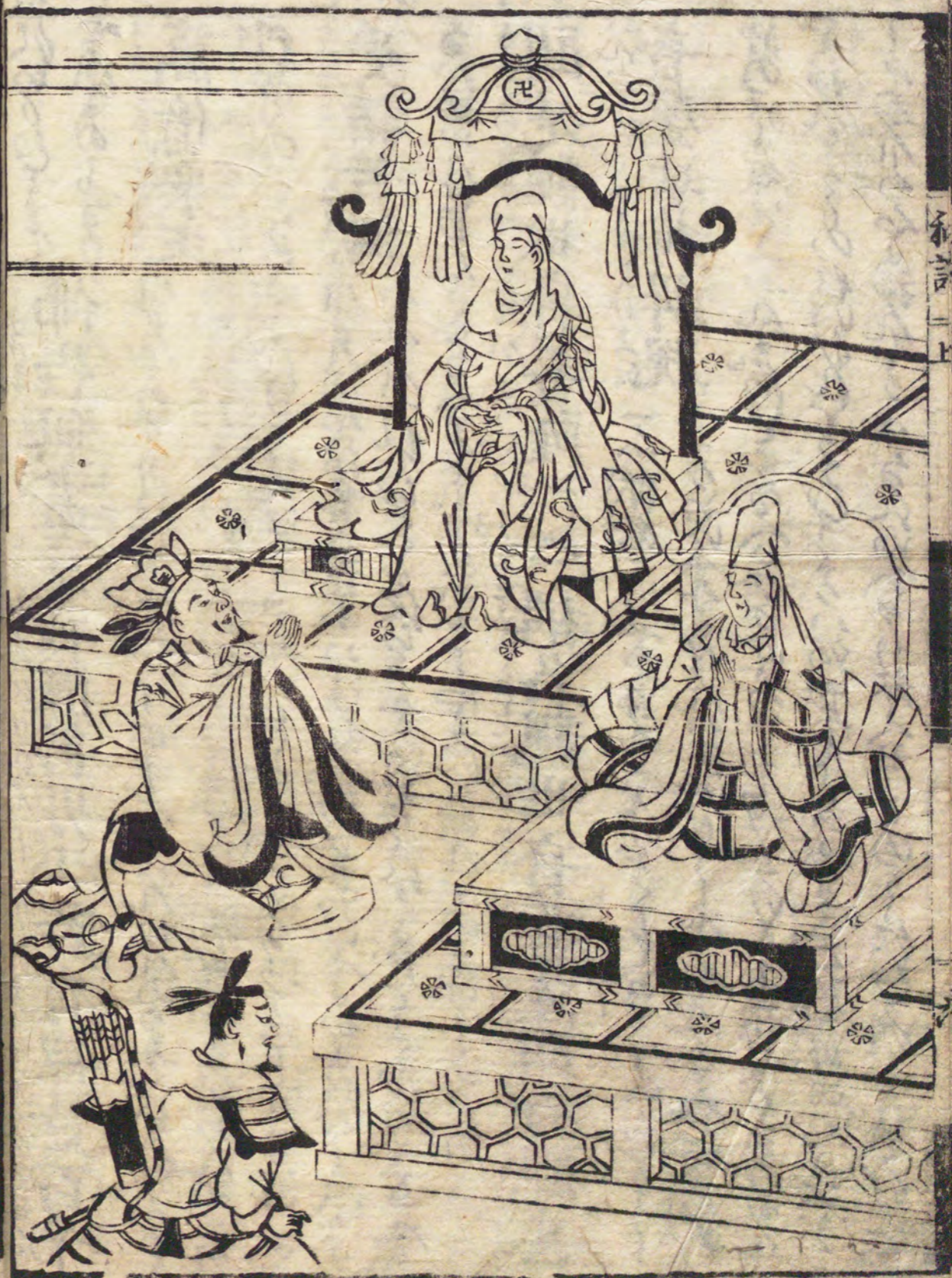
佛告無量壽菩薩善男子若有無量百千萬億衆生

佛告無量壽菩薩善男子若有無量百千萬億衆生... 三十一 念盡... 三十二 念盡... 三十三 念盡... 三十四 念盡... 三十五 念盡... 三十六 念盡... 三十七 念盡... 三十八 念盡... 三十九 念盡... 四十 念盡...

三十一

聞是觀世音菩薩一心稱名觀世音菩薩即時觀其

聞是觀世音菩薩一心稱名觀世音菩薩即時觀其... 四十一 念盡... 四十二 念盡... 四十三 念盡... 四十四 念盡... 四十五 念盡... 四十六 念盡... 四十七 念盡... 四十八 念盡... 四十九 念盡... 五十 念盡...



和言一上

凡言入此... 佛... 火... 燒... 由... 若... 持... 觀世音... 菩薩... 名者... 設入大火... 火不能燒... 由... 是菩薩威神力故... 火不能燒... 由... 是菩薩威神力故...

若有持是觀世音菩薩名者設入大火火不能燒由

是菩薩威神力故

火不能燒... 由... 是菩薩威神力故... 佛... 菩薩... 威... 神... 力... 故... 火... 不... 能... 燒... 由... 是... 菩... 薩... 威... 神... 力... 故... 佛... 菩... 薩... 威... 神... 力... 故... 火... 不... 能... 燒... 由... 是... 菩... 薩... 威... 神... 力... 故...

若為大水所漂稱其名号即得淺處

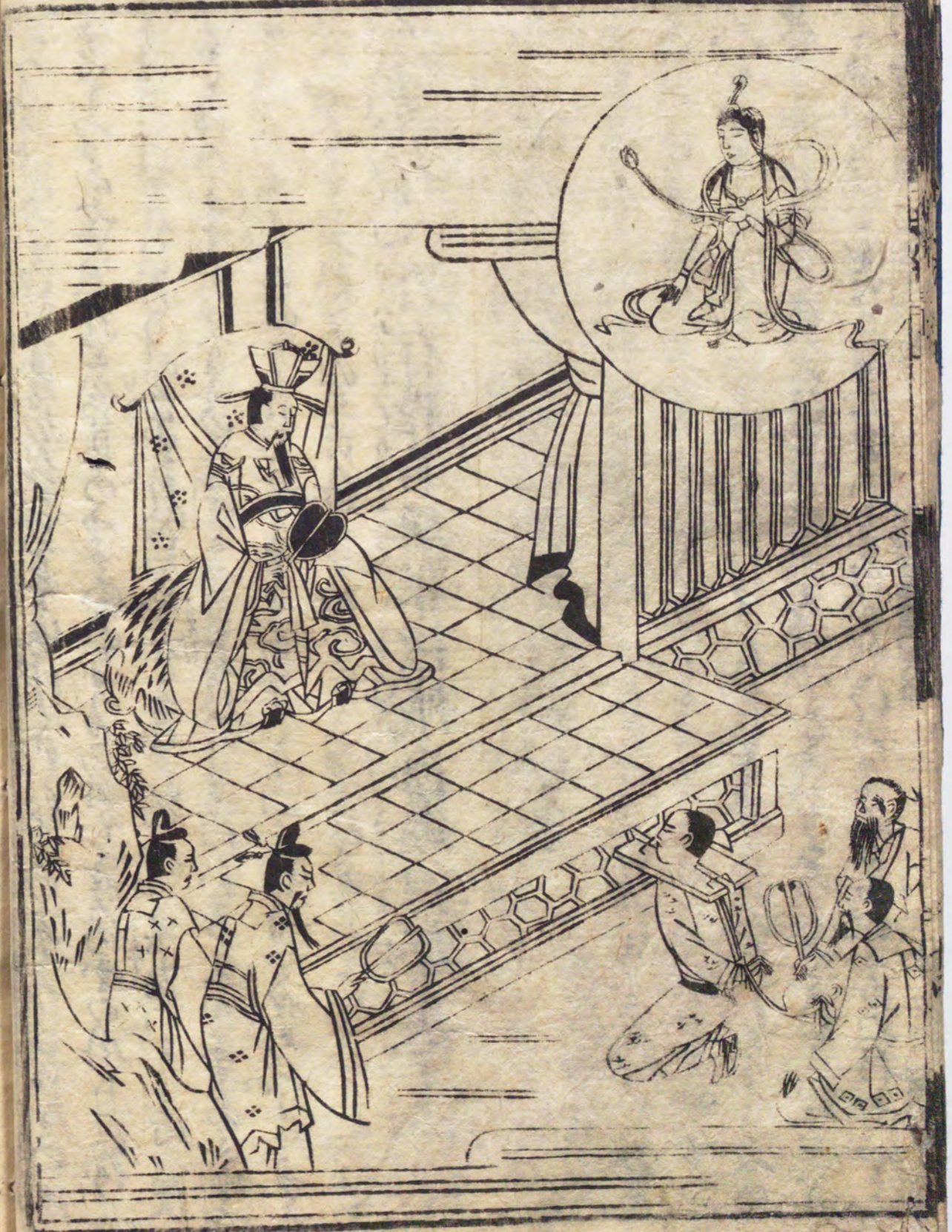
若為大水所漂稱其名号即得淺處... 佛... 菩薩... 名... 号... 即... 得... 淺... 處... 佛... 菩... 薩... 名... 号... 即... 得... 淺... 處... 佛... 菩... 薩... 名... 号... 即... 得... 淺... 處...



利子
上









ふんふの指^{さし}書^かゆふふんふんわ^わゆ^ゆ報^{くわ}る^るわ^わの^のふ^ふわ^わり^りあ^あは^はれ^れり^りう^うこ^こ
あ^あら^られ^れお^おな^なま^ます^すな^なら^らり^りの^の法^ほ律^りま^まの^のふ^ふこ^こに^にあ^ある^るふ^ふた^たま^まは^はく^くふ^ふん^んの^のあ^あら^らわ^わ
え^えい^いと^とふ^ふく^くの^のあ^あら^らわ^わの^のあ^あら^らわ^わと^とあ^あら^らわ^わの^のあ^あら^らわ^わと^とあ^あら^らわ^わの^のあ^あら^らわ^わ
ゆ^ゆふ^ふの^のあ^あら^らわ^わと^とあ^あら^らわ^わの^のあ^あら^らわ^わと^とあ^あら^らわ^わの^のあ^あら^らわ^わ
ふ^ふふ^ふふ^ふと^とあ^あら^らわ^わと^とあ^あら^らわ^わの^のあ^あら^らわ^わと^とあ^あら^らわ^わの^のあ^あら^らわ^わ
と^とあ^あら^らわ^わと^とあ^あら^らわ^わの^のあ^あら^らわ^わと^とあ^あら^らわ^わの^のあ^あら^らわ^わ
あ^あら^らわ^わの^のあ^あら^らわ^わと^とあ^あら^らわ^わの^のあ^あら^らわ^わと^とあ^あら^らわ^わの^のあ^あら^らわ^わ
あ^あら^らわ^わの^のあ^あら^らわ^わと^とあ^あら^らわ^わの^のあ^あら^らわ^わと^とあ^あら^らわ^わの^のあ^あら^らわ^わ
あ^あら^らわ^わの^のあ^あら^らわ^わと^とあ^あら^らわ^わの^のあ^あら^らわ^わと^とあ^あら^らわ^わの^のあ^あら^らわ^わ
あ^あら^らわ^わの^のあ^あら^らわ^わと^とあ^あら^らわ^わの^のあ^あら^らわ^わと^とあ^あら^らわ^わの^のあ^あら^らわ^わ

無盡意觀世音菩薩摩訶薩威神之力量巍巍如是

ひん^{ひん}七^七難^難の^のあ^あら^らわ^わの^のあ^あら^らわ^わの^のあ^あら^らわ^わの^のあ^あら^らわ^わの^のあ^あら^らわ^わ
あ^あら^らわ^わの^のあ^あら^らわ^わと^とあ^あら^らわ^わの^のあ^あら^らわ^わと^とあ^あら^らわ^わの^のあ^あら^らわ^わ
あ^あら^らわ^わの^のあ^あら^らわ^わと^とあ^あら^らわ^わの^のあ^あら^らわ^わと^とあ^あら^らわ^わの^のあ^あら^らわ^わ
あ^あら^らわ^わの^のあ^あら^らわ^わと^とあ^あら^らわ^わの^のあ^あら^らわ^わと^とあ^あら^らわ^わの^のあ^あら^らわ^わ
あ^あら^らわ^わの^のあ^あら^らわ^わと^とあ^あら^らわ^わの^のあ^あら^らわ^わと^とあ^あら^らわ^わの^のあ^あら^らわ^わ
あ^あら^らわ^わの^のあ^あら^らわ^わと^とあ^あら^らわ^わの^のあ^あら^らわ^わと^とあ^あら^らわ^わの^のあ^あら^らわ^わ
あ^あら^らわ^わの^のあ^あら^らわ^わと^とあ^あら^らわ^わの^のあ^あら^らわ^わと^とあ^あら^らわ^わの^のあ^あら^らわ^わ
あ^あら^らわ^わの^のあ^あら^らわ^わと^とあ^あら^らわ^わの^のあ^あら^らわ^わと^とあ^あら^らわ^わの^のあ^あら^らわ^わ
あ^あら^らわ^わの^のあ^あら^らわ^わと^とあ^あら^らわ^わの^のあ^あら^らわ^わと^とあ^あら^らわ^わの^のあ^あら^らわ^わ

観音縁起抄中巻之目録

九一	三つぐの下ノ事	九二	いんよくの事
九三	あんの事	九四	くらんの事
九五	あんまの事	九六	あんの事
九七	あんとんとの事	九八	あんの事
九八	あんとんとの事	九九	あんの事
九九	あんとんとの事		
一〇	あんとんとの事		
一一	あんとんとの事		
一二	あんとんとの事		
一三	あんとんとの事		
一四	あんとんとの事		
一五	あんとんとの事		
一六	あんとんとの事		
一七	あんとんとの事		
一八	あんとんとの事		
一九	あんとんとの事		
二〇	あんとんとの事		
二一	あんとんとの事		
二二	あんとんとの事		
二三	あんとんとの事		
二四	あんとんとの事		
二五	あんとんとの事		
二六	あんとんとの事		
二七	あんとんとの事		
二八	あんとんとの事		
二九	あんとんとの事		
三〇	あんとんとの事		
三一	あんとんとの事		
三二	あんとんとの事		
三三	あんとんとの事		
三四	あんとんとの事		
三五	あんとんとの事		

四十八 四十七 四十六 四十二 四十 三十八 三十六 三十四 三十二 三十 廿八 廿六

三十三の事
三十四の事
三十五の事
三十六の事
三十七の事
三十八の事
三十九の事
四十の事
四十一の事
四十二の事
四十三の事
四十四の事
四十五の事
四十六の事
四十七の事
四十八の事

廿七 廿九 三十一 三十三 三十五 三十七 三十九 四十一 四十三 四十五 四十七 四十八

廿七の事
廿九の事
三十一の事
三十三の事
三十五の事
三十七の事
三十九の事
四十一の事
四十三の事
四十五の事
四十七の事
四十八の事

若くは衆生多於娑婆欲常念恭敬觀世音菩薩便得離
欲若多瞋恚常念恭敬觀世音菩薩便得離瞋若多
愚癡常念恭敬觀世音菩薩便得離癡無盡意觀世
音菩薩有如是等大威神力多所饒益是故衆生常
應心念
三 願志

三 願志







よめらる八相がたうとこれ無常とひんごあり

四 應以辟支佛身得度者即現辟支佛身而為說法

應以辟支佛身得度者即現辟支佛身而為說法
應以辟支佛身得度者即現辟支佛身而為說法
應以辟支佛身得度者即現辟支佛身而為說法

五十 應以聲聞身得度者即現聲聞身而為說法

應以聲聞身得度者即現聲聞身而為說法
應以聲聞身得度者即現聲聞身而為說法
應以聲聞身得度者即現聲聞身而為說法

六十 應以梵王身得度者即現梵王身而為說法

應以梵王身得度者即現梵王身而為說法
應以梵王身得度者即現梵王身而為說法
應以梵王身得度者即現梵王身而為說法

七十 應以帝釋身得度者即現帝釋身而為說法

應以帝釋身得度者即現帝釋身而為說法
應以帝釋身得度者即現帝釋身而為說法
應以帝釋身得度者即現帝釋身而為說法

八十 應以自在天身得度者即現自在天身而為說法

應以自在天身得度者即現自在天身而為說法
應以自在天身得度者即現自在天身而為說法
應以自在天身得度者即現自在天身而為說法

九十 應以大自在天身得度者即現大自在天身而為說

應以大自在天身得度者即現大自在天身而為說
應以大自在天身得度者即現大自在天身而為說
應以大自在天身得度者即現大自在天身而為說

元 應以天大將軍身得度者即現天大將軍身而為說

應以天大將軍身得度者即現天大將軍身而為說
應以天大將軍身得度者即現天大將軍身而為說
應以天大將軍身得度者即現天大將軍身而為說

法 天のいかならんか夫れん天をうけかたてんら此れかたてんいかにあら
のこころのあつたおとらめくたうゆふ天をうけんら

應以毘沙門身得度者即現毗沙門身而為說法

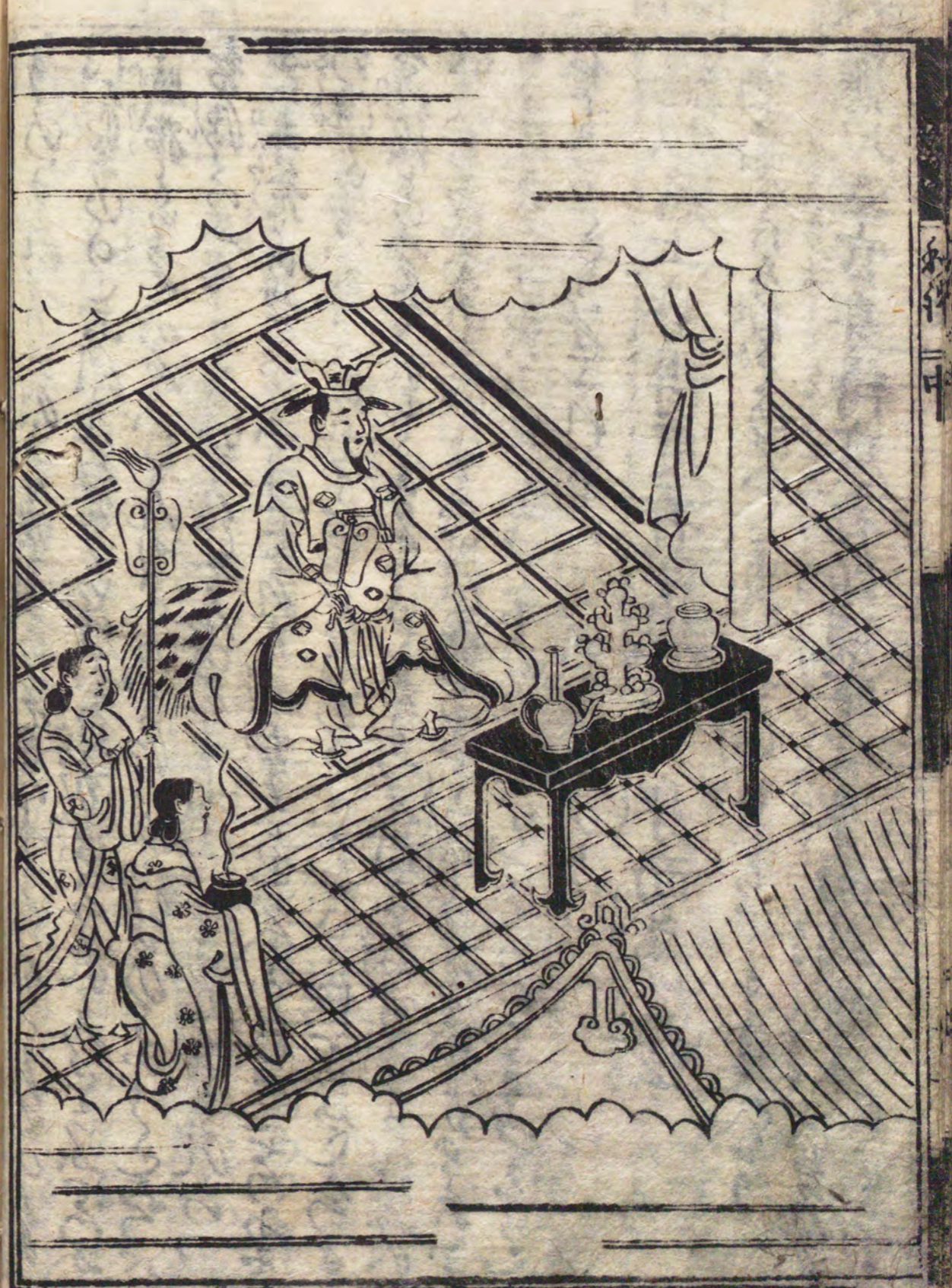
應以小王身得度者即現小王身而為說法

應以長者身得度者即現長者身而為

說法

應以居士身得度者即現居士身而為說法

應以宰官身得度者即現宰官身而為說法



れまゝりしとつゝさりうらねたは法いふとんなり

六九

應以婆羅門身得度者即現婆羅門身而為說法

婆羅門の身を得て度す者即ち現婆羅門の身にして法を説くべし

七九

應以比丘比丘尼優婆塞優婆夷身得度者即現比

比丘比丘尼優婆塞優婆夷の身を得て度す者即ち現比丘比丘尼優婆塞優婆夷の身にして法を説くべし

一卅

應以長者居士宰官婆羅門婦女身得度者即現婦

長者居士宰官婆羅門婦女の身を得て度す者即ち現婦女の身にして法を説くべし

二卅

應以童男童女身得度者即現童男童女身而為説

童男童女の身を得て度す者即ち現童男童女の身にして法を説くべし

三卅

應以天龍夜叉乾闥婆阿脩羅迦樓羅跋致那羅摩睺

天龍夜叉乾闥婆阿脩羅迦樓羅跋致那羅摩睺の身を得て度す者即ち現天龍夜叉乾闥婆阿脩羅迦樓羅跋致那羅摩睺の身にして法を説くべし



廿五
廿六
廿七
廿八
廿九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三

ひつやうれおのし
三十三のらば一は願う下
りらくのおくちめの下
自らのくのおくちめの下
化他をくの下
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三

是故汝等應當一心供養觀世音菩薩是觀世音菩
薩摩訶薩於怖畏急難之中能施無畏是故此娑婆
世界皆号之為施無畏者
即解頸眾寶珠瓔珞價直百千兩金而以與之作是
言仁者受此法施珍寶瓔珞時觀世音菩薩不肯受

言仁者受此法施珍寶瓔珞時觀世音菩薩不肯受



其瓔珞分作二分一分奉釋迦牟尼佛一分奉多寶

佛塔 びんがらん びんがらんといふは... びんがらんといふは... びんがらんといふは...

びんがらん びんがらんといふは... びんがらんといふは... びんがらんといふは...

びんがらん びんがらんといふは... びんがらんといふは... びんがらんといふは...

びんがらん びんがらんといふは... びんがらんといふは... びんがらんといふは...

びんがらん びんがらんといふは... びんがらんといふは... びんがらんといふは...

びんがらん びんがらんといふは... びんがらんといふは... びんがらんといふは...

びんがらん びんがらんといふは... びんがらんといふは... びんがらんといふは...

九

世尊妙相具 我今重問彼 佛子何因緣 名爲觀世音

いんがらん いんがらんといふは... いんがらんといふは... いんがらんといふは...

十

具足妙相尊 偈答無盡意 汝聽觀音行 善應諸方所

いんがらん いんがらんといふは... いんがらんといふは... いんがらんといふは...

十一

弘誓深如海 歷劫不思議 侍多千億佛 發大清淨願

いんがらん いんがらんといふは... いんがらんといふは... いんがらんといふは...

十二

我爲汝畧說 聞名及見身 心念不空過 能滅諸有若

いんがらん いんがらんといふは... いんがらんといふは... いんがらんといふは...

いんがらん いんがらんといふは... いんがらんといふは... いんがらんといふは...

いんがらん いんがらんといふは... いんがらんといふは... いんがらんといふは...

いんがらん いんがらんといふは... いんがらんといふは... いんがらんといふは...

らんぬゆふとふと多んぬとらるる人のびくちを多んぬのちんとおこし
れくしと死すは後海界況と死かたをこれに我にかなのゆふに
おんいあり実名及んぬん念不定と徳賦強み若くらんんと
思ふえまつりわつひらと多んぬとらるるめをけえの若とめを
ふとのちなり

三十

假使興害意推落大火坑 念彼觀音力火坑變成池

ひんがまのむしれとらんのとらるとおもとけなり

四十

或漂流巨海龍魚諸鬼難 念彼觀音力波浪不能没

ひんがまのむしれとらんのとらるとおもとけなり 巨海

五十

或在須彌峯爲人所推墮 念彼觀音力如自虚空住

おもとせんぬのちなりとらるる八方にはおもとけんぬのちなりとらるる八方には

おもとけんぬのちなり 如自虚空住のちなりとらるるおもとけんぬのちなりとらるる
おもとけんぬのちなりとらるるおもとけんぬのちなりとらるるおもとけんぬのちなりとらるる
おもとけんぬのちなりとらるるおもとけんぬのちなりとらるるおもとけんぬのちなりとらるる

六十

或被惡人逐墮落金剛山 念彼觀音力不能損一毛

おもとけんぬのちなりとらるるおもとけんぬのちなりとらるるおもとけんぬのちなりとらるる
おもとけんぬのちなりとらるるおもとけんぬのちなりとらるるおもとけんぬのちなりとらるる

七十

或值怨賊統各執刀加害 念彼觀音力咸即起慈心

おもとけんぬのちなりとらるるおもとけんぬのちなりとらるるおもとけんぬのちなりとらるる
おもとけんぬのちなりとらるるおもとけんぬのちなりとらるるおもとけんぬのちなりとらるる

八十

或遭王難若臨刑欲壽終 念彼觀音力刀尋段段壞

おもとけんぬのちなりとらるるおもとけんぬのちなりとらるるおもとけんぬのちなりとらるる
おもとけんぬのちなりとらるるおもとけんぬのちなりとらるるおもとけんぬのちなりとらるる



ひのんはまへをのれれまらんの前れりてよめとあがり

或囚禁枷鎖手足被桎械 念彼觀音力 釋然得解脫

ひのんはまへのをのれれ枷鎖のありりてよめとあがり

咒咀諸毒藥 所欲害身者 念彼觀音力 還著於本人

ひのんのやんをのりひのひをぞりてよめとあがり

或遇惡羅刹 毒龍諸鬼等 念彼觀音力 時悉不敢害

ひのんまへのをのれれまらんの前れりてよめとあがり

若惡獸圍繞 利牙爪可怖 念彼觀音力 疾走無邊方

ひのんはまへのをのれれまらんの前れりてよめとあがり

三 蚊虻及蝮蠍 氣毒烟火燃 念彼觀音力 尋聲自迴去

ひのんはまへのをのれれまらんの前れりてよめとあがり

四 雲雷鼓剋半電 降雹澍大雨 念彼觀音力 應時得消散

ひのんはまへのをのれれまらんの前れりてよめとあがり

五 衆生被困厄 無量苦逼身 觀音妙智力 能救世間苦

ひのんはまへのをのれれまらんの前れりてよめとあがり

六 具足神通力 廣修智方便 十方諸國土 無刹不現身

ひのんはまへのをのれれまらんの前れりてよめとあがり

ひのんはまへのをのれれまらんの前れりてよめとあがり

ひのんはまへのをのれれまらんの前れりてよめとあがり

ひのんはまへのをのれれまらんの前れりてよめとあがり

ひんのかまのせりれ... ちんご... ちんご... ちんご...

七元 種種諸惡趣 地獄鬼畜生 生老病死苦 以漸悉令滅

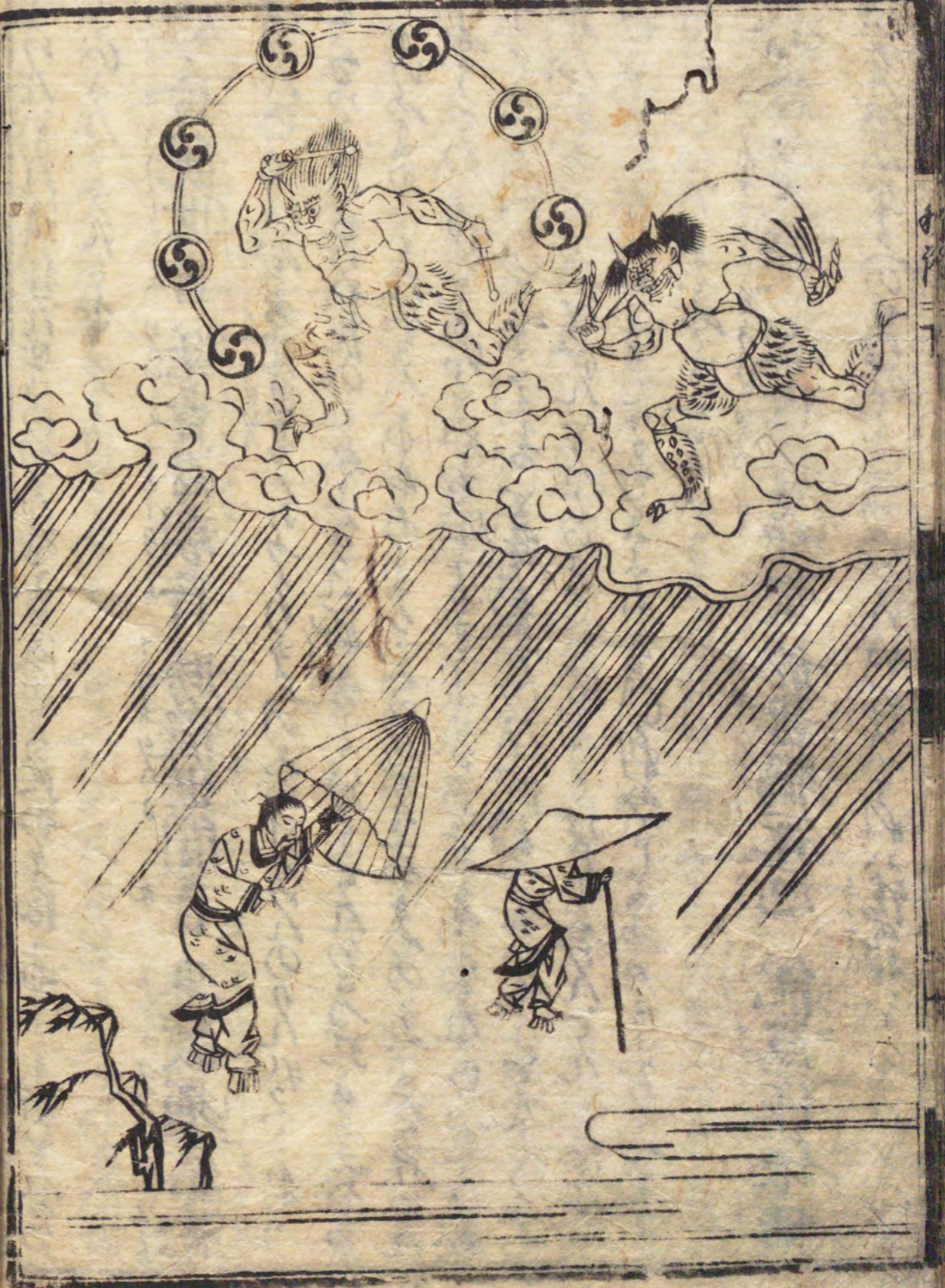
ひんのかまのせりれ... ちんご... ちんご... ちんご...

八元 真觀清淨觀 廣大智慧觀 非觀及慈觀 常願常誓仰

ひんのかまのせりれ... ちんご... ちんご... ちんご...

九元 無垢清淨光 慧目破諸闇 能伏災風火 普明照世間

ひんのかまのせりれ... ちんご... ちんご... ちんご...



佛説是普門品時衆中八万四千衆生皆發無等等

阿耨多羅三藐三菩提心

此品之要... 阿耨多羅三藐三菩提心... 佛説是普門品時衆中八万四千衆生皆發無等等

○毎月十八日に念ふとんの法名とて... 念ふとんは念ふとん

正月朔日	百回よびう	二月朔日	百回よびう
三月朔日	九十回よびう	四月十八日	又十日よびう
六月十八日	百回よびう	六月十八日	又十日よびう
七月十日	百回よびう	八月十日	又十日よびう
九月十日	百回よびう	十月十日	又十日よびう
十一月七日	百回よびう	十二月七日	又十日よびう

大い日あはれん... 念ふとんは念ふとん

ついでに書かれたりはせよと云ふにまてとせしめしむるはせん
よめは自らにまてしむるはせん

十四日 大慈観音

又おまのにまてす 又おまのにまてす 又おまのにまてす 又おまのにまてす
又おまのにまてす 又おまのにまてす 又おまのにまてす 又おまのにまてす
又おまのにまてす 又おまのにまてす 又おまのにまてす 又おまのにまてす

十一日 大慈観音

又おまのにまてす 又おまのにまてす 又おまのにまてす 又おまのにまてす
又おまのにまてす 又おまのにまてす 又おまのにまてす 又おまのにまてす
又おまのにまてす 又おまのにまてす 又おまのにまてす 又おまのにまてす

廿九日 大光菩薩観音

又おまのにまてす 又おまのにまてす 又おまのにまてす 又おまのにまてす
又おまのにまてす 又おまのにまてす 又おまのにまてす 又おまのにまてす
又おまのにまてす 又おまのにまてす 又おまのにまてす 又おまのにまてす

廿三日 大光菩薩観音

又おまのにまてす 又おまのにまてす 又おまのにまてす 又おまのにまてす
又おまのにまてす 又おまのにまてす 又おまのにまてす 又おまのにまてす
又おまのにまてす 又おまのにまてす 又おまのにまてす 又おまのにまてす

又おまのにまてす 又おまのにまてす 又おまのにまてす 又おまのにまてす
又おまのにまてす 又おまのにまてす 又おまのにまてす 又おまのにまてす
又おまのにまてす 又おまのにまてす 又おまのにまてす 又おまのにまてす

馬喰町二丁目 西村屋與八板

大傳町三丁目 正木屋 辨形屋孫兵衛板

